

# うたごえ新聞

8/21・28

(1995年)

NO. 1541

THE SINGING VOICE OF JAPAN (UTAGOE)

日本のうたごえ全国協議会機関紙  
うたごえ新聞社  
〒109 東京都新宿区大久保2-16-36  
☎03(3209)0638 FAX03(3200)0105  
振替口座 00120-6-5631 毎週月曜日発行  
1部154円・税込(〒40円)・月615円・税込(〒160円)



▲全国合同「アメイジング・グレイス」の舞台。指揮・池辺晋一郎、ソロ・小畑佳子（撮影・島崎省吾）

# 50年目の広島から幾千万の生命照らす

## 被爆・戦後50年日本のうたごえ祭典 ピースウェーブコンサート'95ひろしま 5000人のハーモニー



▲1995年8月6日、8時。50年前のあの時を迎える原爆ドームと平和公園

「うたごえは平和の力」、この合言葉を文字通り、圧巻の演奏で、被爆50周年の広島に集おう。平和を願う多くの人々との輪を広げながら。被爆・戦後50年日本のうたごえ祭典「ピースウェーブコンサート'95ひろしま」の開催を決めてから、地元広島のうたごえでは2年近くの準備を重ね、全国からの参加者ととも

もにこの日、8月5日、広島サンプラザホールで開幕を迎えた。

プロローグ、鐘、ピアノスト・研井功子さんの大江光作曲「広島のアレキエム」の演奏から原爆を許すまじへ、そして第一部「From Hiroshima」からフィナーレまで「平和」へのトーンに集中し、舞台はすずんだ。全国各地で

「核兵器NO」とどげよう世界へ。を今回のそれぞれのステージの真髄として積み重ねられてきた演奏は、ほほ埋る客席の聴衆とともに心に刻むものとなった。  
「幾千万の月日重ねて 我ら人類と成りぬ。幾千万の生命照らして」  
人類史上初の核兵器惨禍を受けた広島、しかし50年後の今、我々は声を大に核兵器の廃絶を叫ばなければいけない、現実幾多の試練がある。それを乗り越えて、今、被爆50年、新たな平和への決意もこめて、全国合同「アメイジング・グレイス」は800人の圧巻の演奏(上写真)。編曲、指揮にあたった作曲家・池辺晋一郎氏は「うたい手の心・演奏の集中、聴衆の反応を強く感じた。全国各地で練習してきたものがある日、一堂に会し一つにまとまった大きな力を出せる、うたごえならではの「ささ」と語る。  
5000人のハーモニーに5000の思い、ドラマがある。次号以降詳報。

この夏最高の暑さの中、被爆地広島での日本のうたごえ祭典は、熱い感動と平和の思いを新たにす終わった。  
あの舞台うしろの階席もぎっしりうめつとして、圧巻だった「アメイジング・グレイス」の大合唱は、三時間半の音楽会をつくりあげたたくさんの方々の命を照らして。  
☆ ☆ ☆  
祭典二日後の運営委員会  
で委員長の日氏曰く、「この祭典準備は障害物競走みたいじゃったのう、障害にぶつかるとびにきたえられ、それを乗り越えてきたもんよのう」。「アメイジング・グレイス」の幾千万の試練 超えて 我ら 共に立つ という心境じゃのう」と冗談も出る。  
☆ ☆ ☆  
四時間半のプログラムから三時間半への短縮問題。三ヶタから四ヶタの組織へ到達するまでの長く重い日々。手ぜまの事務所のため人が寄ってこない等々。  
プログラム問題は、全国実行委員会の知恵で大胆に縮小、組織は、P・W・合唱団、アメイジング合唱団員の拡大とそれに依拠したひろがり、明るく広いスペースの事務所の確保は、人が人を呼び、運動全体の局面をかえた。  
☆ ☆ ☆  
私たちは、障害にまっすぐたむかひ、のりこえることによって、勝利をつかんだ。その力は、世界大会広島と長崎への連帯演奏に表された。(志)

### 95年夏の合併号

☑「ピースウェーブコンサート'95ひろしま」特集

1、4～7面

☑「フィリピンの音楽シーン」オリジナル・フィリピン・ミュージック

3面

#### ☑「連載」

ミュージック・トッデイ (和田静香・小林陽一) ☑「芸能マンスリー」(伊藤強) ☑「イキイキ和太鼓らいふ」☑「まん画」となりの河童さん」(伊東草夫) ☑「空を見えますか」(池辺晋一郎)

☑「映画100年」-秋山邦晴

-映画館がコンサートホール-

☐「ポリシヨイ・オペラを観て」(小村公次)

10面

☑「新メーデー歌募集」

三上満さんに聞く

10・11面

☑「グローバル・ピース・ジャパン・コンサート」

8月6日・東京 (蔵本洋)

※次号9月4日号の本局発送は8月25日です うたごえ新聞社